

第7回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会

日時：令和7年9月29日（月）

午後5時30分～7時

会場：おかや総合福祉センター

（諏訪湖ハイツ）

コンベンションホール

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 会議事項

（1）第6回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ

（2）校地検討会議報告

（3）先行事例視察報告

（4）学びのイメージに係る意見交換

5 その他

次回の予定 調整中

6 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- （1）学校像、教育方針等に関すること
- （2）校地・施設・設備等に関すること
- （3）管理運営等に関すること
- （4）教育内容等に関すること
- （5）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

（構成員）

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

（開催期間）

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会構成員名簿

(敬称略) 下線 新構成員

○ 座長

		氏名（座長○）	所属等	役職等
1	自治体	藤澤 正	岡谷市	副市長
2		後藤 慎二	諏訪市	副市長
3		宮坂 享	岡谷市教育委員会	教育長
4		三輪 晋一	諏訪市教育委員会	教育長
5		<u>山田 典史</u>	下諏訪町教育委員会	教育長
6	産業界	木下 敏彦	岡谷商工会議所	副会頭
7		白鳥 和美	諏訪商工会議所	副会頭
8	学識経験者	○市川 純章	公立諏訪東京理科大学	地域連携総合センター長
9	地域	宮坂 和幸	セイコーエプソン株式会社人的資本・健康経営本部	総務部長
10		高林 千幸	岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）	館長
11		竹花 顕宏	諏訪地域振興局	局長
12	同窓会	小松 壮	（一社）岡谷工業高等学校同窓会	理事長
13		木村 明美	諏訪実業高等学校同窓会	副会長
14	定時制振興会	山田 幸男	定時制振興会	会長
15	P T A	宮坂 征和	岡谷工業高等学校 P T A	P T A 会長
16		宮川 美咲	諏訪実業高等学校 P T A	P T A 会長
17		田畑 幸司	岡谷市 P T A 連合会 代表	会長
18		佐藤 太郎	諏訪市 P T A 連合会 代表	会長
19	小中学校等 関係者	飯嶋 政泰	諏訪小学校長会 代表	長地小学校長
20		増村 隆洋	諏訪中学校長会 代表	諏訪,南中学校長
21		高坂慎太郎	諏訪養護学校	教頭
22	再編対象校	中嶋 健太	岡谷工業高等学校	生徒会長
23		村田 秀斗	岡谷工業高等学校	生徒会副会長
24		橋詰 正克	岡谷工業高等学校	校長
25		清水 哲	岡谷工業高等学校	教職員
26		濱 蒼太	諏訪実業高等学校	生徒会長
27		西川 みく	諏訪実業高等学校	生徒会副会長
28		有賀 浩	諏訪実業高等学校	校長
29		馬場美江子	諏訪実業高等学校	教職員

【事務局】

学校名	氏 名（役職等）
岡谷工業高等学校	（教頭）飯島 健二
	（教諭）御子柴 久雄、見波 泰、山口 隆、小池 作治、清水 哲
諏訪実業高等学校	（全日制教頭）楯 和弘、（定時制教頭）山本 正和
	（教諭）現田 康太郎、馬場 美江子、小川 淳子

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会	柳沢 勝美	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	宮嶋 直美	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	高橋 正俊	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	依田 奈弓	高校教育課 高校再編推進室	主事
	宮沢 悠太	学びの改革支援課	指導主事

第6回 岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日 時	令和7年6月27日（金）17時30分～19時00分		
場 所	長野県諏訪実業高等学校 会議室		
出 席 （敬称略）	藤澤正、後藤慎二、宮坂享、三輪晋一、松崎泉、白鳥和美、◎市川純章、高林千幸、小松壮、木村明美、山田幸男、宮坂征和、田畑幸司、佐藤太郎、飯嶋政泰、増村隆洋、高坂慎太郎、村田秀斗、河西修佑、橋詰正克、清水哲、池田惟路、伊藤太陽、有賀浩、馬場美江子 以上25名		
欠 席 （敬称略）	竹花顕宏、木下敏彦、宮坂和幸、宮川美咲、 以上4名	傍聴者	5名（うちオンライン4名含む） 報道関係3社
事務局	岡谷工業高校	飯島教頭、御子柴教諭、見波教諭、山口教諭、小池教諭、清水教諭	
	諏訪実業高校	楯教頭（全日制）、山本教頭（定時制）、現田教諭、馬場教諭、小川教諭	
当日資料	第6回懇話会資料、会場配置図、再編実施基本計画（案）学びのイメージ（詳細版）		

会議事項

- (1) これまでの懇話会の流れと今年度の予定について
- (2) 第5回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ
- (3) 学びのイメージに係る意見交換

学びのイメージに係る意見交換(概要) → 事務局 ⇒ 座長

(1) これまでの懇話会の流れと今年度の予定について

- ・懇話会のスケジュールについて第10回再編実施計画懇話会で確定となっているが、今後3回の会議で決定するということか。

→回数ありきではなく、一定の方向がでるまで議論を尽くすので、回数はあくまで予定である。

(2) 第5回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ 質問意見なし

(3) 学びのイメージに係る意見交換

○「目指す学校像」「育てたい生徒像」「学びの柱」について

- ・「専門性」について、専門性のある学校が一緒になることで尖ったことができる。何かに特化した「総合ビジネスハイスクール構想」というのが良い。商売がすぐできるようになるなど、新校になると設計から施工、デザイン、課題から販売促進、マーケットまでできるのではないかな。
- ・定時制の観点について、定時制に入学する生徒の学びは多様化しており、昔の勤労学生のイメージでなく、中学校で不登校だった生徒が気持ちを切り替えて通っている場合も多い。定時制は、夜間、昼間、単位制、この地域の私立では通信制もある。いろいろな学びの場を定時制の中に活かして、諏訪地域の学びの場を広げていただきたい。
- ・簿記や情報処理を学んで、岡工の工業と組み合わせるのはとてもよいと思う。専門性を学べる高校を組み合わせるのはとても良い。
- ・小中学校では、地域とともに学校づくりをしている。少子高齢化になって予測困難な時代の中、当事者意識を持つこと、持続可能であることを大切にしている。諏訪地域には産業や技術に長けた機関があるので、地域の人々との連携はとても大事だと思う。地域の実践家や専門家の方と繋がりながら多様な学びが展開できるのは素敵だと感じる。

○ 新校での学びの具体について

- ・学科横断チームについて、今は学科を越えた協力体制がありませんので良いと思う。愛国心もあった方が、誇りを持って自分の軸を持って学びにむかえて良い。⇒ 地域などへの帰属意識も大切である。
- ・探究や独自性を発表する場、高校生万博、学科横断などエキスをまとめて一つにしたらどうか。学科やクラスを越えたという部分も簡潔にまとめるのはどうか。諏訪東京理科大との連携、指導をいただく、大学生が新校に来てくれるなど。専門性と言いながらオールラウンダーと言っている部分はもう少し絞ってはどうか。諏訪地域を支え貢献するという部分はもう少し広く表現したらどうか。

- ・ゼネラリスト、オールラウンダーの部分について、商業科の科目に工業の内容が入ることか。専門の科目に加えて他の分野でも専門を高めてオールラウンドとなるのは自分には難しく感じた。
⇒2つの専門性を持つということではなく、自分の専門の核を持っていて、その周辺のことや、それ以外のことも少しだがきちんと知っているというT型人材の強みがある。また全員がオールラウンダーになるということではなく、多様な学びのスタイルがある。
- ・入学する生徒や保護者がわくわくするような表現がないと魅力に欠けてしまう可能性がある。この高校に入れば楽しめるようなフレーズもあれば生徒が喜ぶと思うのでお願いしたい。
- ・地域とともに未来を作るとき尖ったスペシャリストが必要である。高校生の間に軸ができれば汎用されて学びが広がる。スペシャリストとゼネラリストの両方が育つような学科、渡り歩くことが可能な柔軟な教育システムが大事である。多様な生徒の学びを保証し、支えていくなど様々な学びができるからこそ総合技術高校ではないか。実際の仕組みが大切で必要だと思う。探究や発表の仕組みは大事だが、未来社会の担い手を育てるために単なる学びの発表ではなく、実走する企業と連携をして高校生が企業を立ち上げるような、動きが見えてくるようなフレーズがあった方がよい。とことん極めるとはそういうこと、もう少し踏み込んだ魅力を打ち出した方が楽しいと思う。
- ・基礎をしっかりと学ぶことは非常に大事。専門的なものを学ぶというインパクトは良いが、今の生徒は基本的な学校生活ができているだろうか。取り入れていただけるとありがたい。
- ・学科横断について、他の科に関わる機会がとても少ない。他の科の内容にも興味があるので、選択肢があると自分も想像しやすい。将来好きなことを見つけるのも簡単になるのではないか。選択肢の多い学校に通いたい。
- ・これまでの懇話会で生徒たちから、服飾の生徒からファッションショーの照明を岡工の技術でできると嬉しいという話や後輩のために大勢の人が大事に考えていることに感謝しているという明るい話があった。一人ひとりを大切にする、多様な他者とのコミュニケーションは、地域性、専門性のベースとなる一番大事な部分。アピールできれば素晴らしい。職員も生徒とともに学び、生徒を認めて高めていく、地域の皆様に素敵な学校だと伝わっていく、この視点この部分を大事にしていきたい。
- ・意見を聞いてイメージを見ると私はわくわくしたかなと思う。総合ビジネスハイスクール構想はイメージがしやすい。育てる生徒像の3番目、豊かな社会性と人間性を持った人、多様な他者との関わりというところがすごく大事。生徒が授業中しゃべりながら教えあい話し合う授業風景はとても雰囲気が良い。街づくりに関わっているが、そこでも今求められていることは、専門性は大事だがその人たちが集まり知恵を出し合う方にシフトしている。他者との関わりと融合が大事だと感じる。その未来が見えるとわくわくする学校づくりになる。

(座長まとめ)

本日はこれまでの意見交換をまとめた、たたき台ということで、意見をいただいた。今後、こんな取組があればもっとよくなるのではないかな、などのアイディアを追加し懇話会で検討できれば良いと思う。

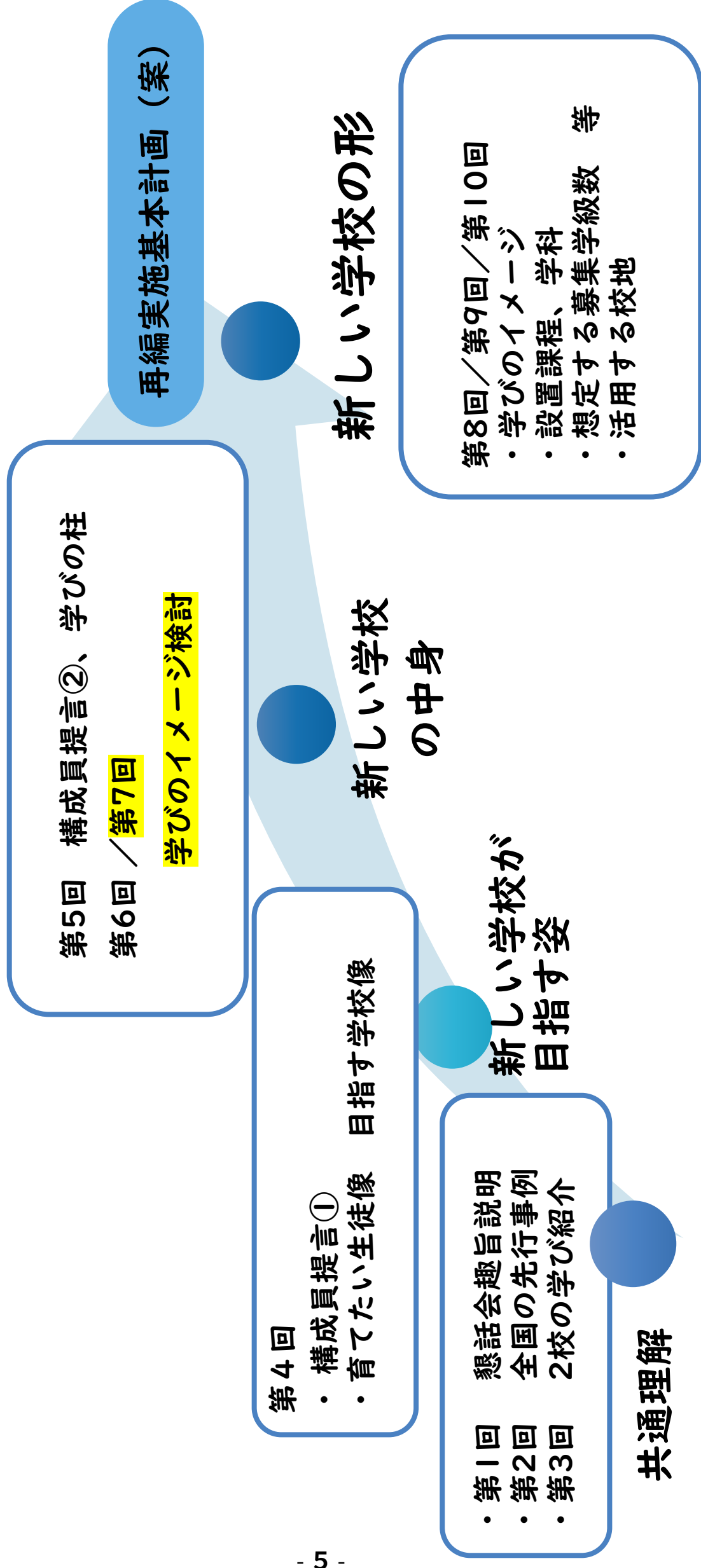
その他

【次回】

9月頃で調整

学びのイメージ原案検討②(全体討議)、県外先進校 視察報告

「再編実施基本計画（案）」策定スケジュール



岡谷諏訪総合技術新校 校地検討部会設置要綱

高校再編推進室

1 目的

県教育委員会が岡谷諏訪総合技術新校の校地を決定するにあたり、岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会（以下、「懇話会」という。）における意見交換を円滑に進めるため、校地に特化して検討を行う専門部会（校地検討部会）を設置する。

2 運営

- (1)校地検討部会には部会長を置く。
- (2)校地検討部会が開催する会議（校地検討会議）は原則として非公開とする。
- (3)校地検討会議の開催は懇話会と同一日を基本とする。
- (4)校地検討会議では、校地・校舎に係る環境、通学環境、学習活動を支える教育環境等の観点から新校の校地について検討する。
- (5)校地検討会議の内容については、随時懇話会で報告する。

3 構成員

	区分	氏名	所属等
1	自治体	宮坂 享	岡谷市教育委員会教育長
2		三輪 晋一	諏訪市教育委員会教育長
3		山田 典史	下諏訪町教育委員会教育長
4	産業界	木下 敏彦	岡谷商工会議所副会頭
5		白鳥 和美	諏訪商工会議所副会頭
6	学識経験者	市川 純章	公立諏訪東京理科大学教授・地域連携総合センター長
7	同窓会	小松 壮	（一社）岡谷工業高等学校同窓会理事長
8		木村 明美	諏訪実業高等学校同窓会副会長
9	学校関係者	橋詰 正克	岡谷工業高等学校校長
10		有賀 浩	諏訪実業高等学校校長

オブザーバーとして地域振興局長が参加する。

地域とともに未来を創るものづくり教育 「創造」と「挑戦」の学び舎

2
VOL.

生徒一人ひとりが自分の「やってみたい」を見つけ、自ら考えて挑戦し、夢の実現を目指す学校です。商業・工業・家庭の分野を専門的かつ横断的に学び、地域をフィールドに企業・自治体・大学・地域の人々と連携した実践的な学びで、柔軟な心と豊かな人間性を育て未来の社会を支える人材を育成します。

目指す学校像

- 専門性を高めるとともに、学科の枠を越えた連携や学びの融合を通して、生徒一人ひとりの「夢」を「現実」にできる学校。
- 一人ひとりを大切に、互いに認め合い、柔軟な心と豊かな人間性、社会性を育む学校。
- 実社会や地域産業、大学と連携して、実践的な課題解決プログラムに取り組み、持続的発展のために環境問題・社会課題に挑む人材を育てる学校。

育てる生徒像

- **自ら考え、挑戦するひと**
自ら考え何事にも一生懸命に取り組める生徒。壁を乗り越える実行力と挑戦への意欲を持ち、学びを深めて学びつづけるひと。
- **専門性の上に、広い視野を持ち、新たな「価値」「もの」を創造するひと**
専門の学びと、他の分野に触れる機会を通して、多角的な視点を持つことで広い視野を持ち、「価値」「もの」を創造するひと。
- **豊かな社会性と人間性をもったひと**
多様な他者との関わり学びあう中で、豊かなコミュニケーション力を身につけ、互いを尊重しながら協働的に課題に取り組むことができるひと。
- **地域の未来を支え貢献できるひと**
自主・自立・主体的に学が姿勢を大切に、地域と共に学び地域への思いを育み、未来の社会を支え貢献できるひと

学びの柱

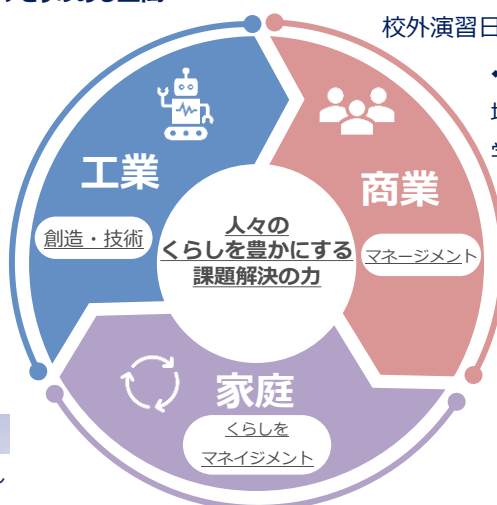
- 専門的な学びと分野横断的な学びから多角的な視点と、広い視野を持ち、幅広い知識とスキルを身につける学び。
- 地域をフィールドに、地域と連携した実践的な実走する学びを通して技術と創造性を育む学び。

学びの連携融合 分野横断的な学び

～問を持ち本質に迫る学びで新しい可能性を切り開く～
探究協働プロジェクト（1～2年）から課題研究（3年）へ深化
ビジネス基礎科目（1年全員が履修）
生徒による魅力の発信情報発信・企画
❖ 学びの交流が生まれる空間 ・フレキシブでゆとりのある空間



エネルギー・制御
加工・組立・通信・回路
工業デザイン
ネットワーク
プログラミング
AI・ロボット



多様な進路に対応する柔軟な学び

～「好き」を見つけ極める～
他学科の学びを学べる「総合選択科目」科目群
専門家（本物）と出会うキャリア教育
学校間連携・インターンシップなどの柔軟な単位認定
専門的な資格取得

ファッションデザイン
服飾手芸・造形

地域と企業大学と連携する実践的な学び

学校が協働する地域連携コンソーシアムの構築
校内に❖地域連携協働室を設置しコーディネーターの配置により企業・大学・地域との連携の強化。
❖ 地域と生徒、誰もがアクセスしやすい学びあう空間
地域に飛び出し探究・フィールドワークができるしくみ
校外演習日 校外実習の単位認定

❖ 「ものづくり工房」 ❖ 「くらしラボ」
地域課題に寄り添うプロジェクト 小中学校出前講座
学びの発信 地域企業と連携した“高校生万博”

マーケティング
ビジネス
会計
簿記

多様な人間関係・交流の促進

～幅広い出会い、安心できる居場所～
ミックスホームルーム（1年次）
学年・学科に縛られない合同ゼミ
職員も生徒と共に学びあう
❖ 開かれた交流スペース



君たちの未来へ 可能性を伸ばそう

～ 一人ひとりの個性が「ハーモニーを奏でる」学校、定時制（普通科）

【目指す学校像】

- ▷生徒一人ひとりの個性を尊重する、安心・安全な居場所となる学校。
- ▷相手を尊重し、自己を肯定できる心を養い、地域社会で自立できる人材を育てる学校。

【目指す生徒像】

- ▷自分の未来に向け「なりたい自分」を築き上げ、その実現のために可能性を伸ばし、自分の能力を高め努力することができるひと。
- ▷多様化する社会において、異なる価値観を持つ人々とも協調して物事に取り組むことができるひと。

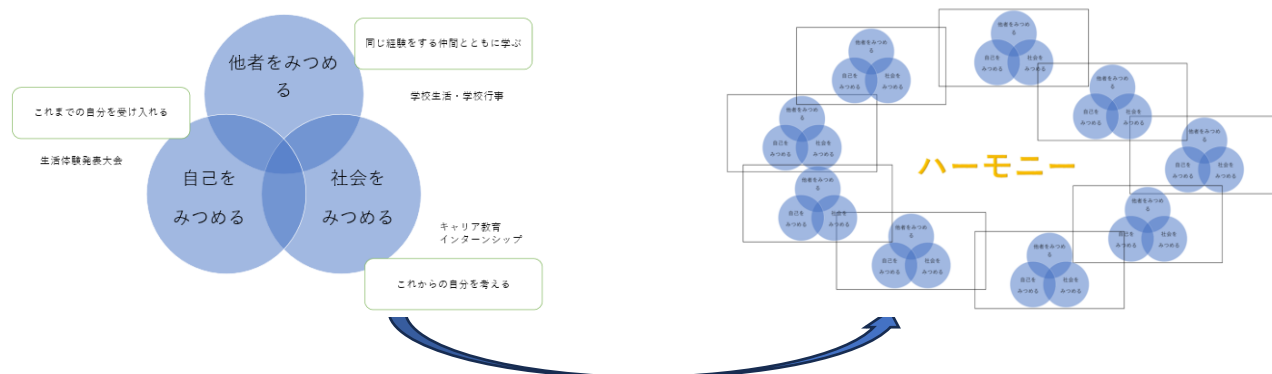
【学びの柱】

- ▷地域との連携やキャリア教育など社会との関わりでの学びから、生徒一人ひとりが自分に合った将来的な人生設計や職業観を育む学び。
 - ・習熟度別講座（数学・英語）やT T（ティームティーチング）講座の開設、ゆったりとした教室環境中で、きめ細やかで面倒見のよい教科指導を行い、基本的な知識を身につけます。
 - ・漢検・英検・商業検定・数検など、進路につながる資格取得を目指すことで、挑戦する心を持ち自分の能力を高めようとする力を身につけます。
 - ・就職や専門学校・短期大学・4年制大学進学など、さまざまな進路に応じたキャリア教育、全日進路室との連携を通じて、豊かな人間性や社会と関わる力を身につけます。
- ▷普段の学校生活や学校行事での学びから、対人コミュニケーション力を身につける学び。
 - ・学年を越えた学校全体での諸行事や生活体験発表大会を通じて、自己理解を深め、他者とのコミュニケーション能力を高め、お互いに励ましあい協力できる、よりよい人間関係の形成を行います。
 - ・意欲的に校友会（生徒会）活動・学級活動・クラブ活動などに取り組むことによって、個人としても集団としても成長することを目指します。
 - ・学校生活に不安を抱える生徒に対し、個々のニーズに応じた丁寧な支援・相談を行うとともに、さまざまな機関とも連携してサポートしていきます。

【学びの仕組み】 一人ひとりの個性が「ハーモニーを奏でる」学校（イメージ）

個人

全体



■ 学科横断 探究協働プロジェクトの学び(例)

学年	学び	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 学年	探究学習	・オリエンテーション(ソーシャルスキルトレーニング/仲間づくり)	・自分史を作ろう	・自分史を作ろう 発表	・自分史の振り返りと自分の未来の想像する①	・キャリアについて考える講演会	・各業界から講演会	・地域の産業と魅力を知る	・地域研修旅行の実施(地域で生きる人へのインタビューの準備)	・地域研修旅行の実施(地域で生きる人へのインタビュー)	・地域研修旅行行まとめ	・発表および振り返り	
	共通ビジネス学習	・SDGs学習 ゲーム ・プレゼンテーション基礎	・プレゼンテーション基礎	・金融リテラシー(含む講演)	・現代のサブライチャエーンと貿易	・マーケティングとアントレプレナー基礎※含む講演	・マーケティングとアントレプレナー基礎※含む講演	・ビジネスデザイン基礎	・ビジネスデザイン基礎 ・Webデザイン基礎	・Webデザイン基礎	・Webデザインと電子商取引	・Webデザインと電子商取引	
2 学年	探究学習	・キャリア講演会 ・自分の未来を創造する②	・自分の未来を創造する②	・アカデミックインターンシップ	・アカデミックインターンシップまとめ	・自分の未来を創造する③ ・発表	・探究ガイダンス ・探究講演会	・探究テーマを考える	・探究テーマを考える	・探究Hop	・探究Hop	・探究Hop振り返り	
			自己と社会の未来創造							探究Hop			
3 学年	探究学習	・探究Step※含むテーマ見直し	・探究Step	・探究Step	・探究Step ・中間発表	・探究Jump	・探究Jump	・探究Jump ・まとめ	・まとめ、発表準備 ・発表(予選)	・論文 ・論文	・論文 ・発表(学習成果発表会)	・論文まとめ	
			探究Step										

探究協働プロジェクト展開例 （R 6、R 7 連携実績）

1 学年 ～自己探究～

考える練習ワークショップ（工：「工業技術基礎」）

岡谷市と電通総研と信州大学サテライトキャンパス、地元企業の支援のもと、ものづくりについて学びを始める 1 年生向けに探究活動の導入を目的としたワークショップを実施。ワークショップを通じて、物事の本質を見極める手法を学ぶ。

高大連携

- 日本工業大学の最新のロボット技術について学ぶ（工：「工業技術基礎」）
 - ・最新の技術の講演を聞き課題研究の研究内容を考えるきっかけする。
 - ・将来の進むべき道等、進路について考える機会とする。
- 公認会計士（大学教授）に講義（商：「簿記」）
 - ・簿記を学ぶ意義と活用手法、実社会において簿記はどのように活用されているかを学ぶ。
 - ・実際の企業の財務諸表から財務分析から実践的な経営について学ぶ。

企業連携

- セイコーエプソン株式会社にて熟練技能者指導のもと、ものづくりの基本技能を学ぶ。（工：「工業技術基礎」）



▲やすり掛け技術について学ぶ様子

2 学年 ～社会に対する自身の関わり～

上級学校連携

○Yumi Katsura トーク&ファッションショー in 岡谷 への参加 モデル出演およびイベント補助（服：「家庭総合」）



▲ショーの流れについてお話を伺う様子

地域課題・地域企業連携

○市役所講演（商/服：「諏実探究」）

- ・総務課/商工課/生涯学習課/健康推進課/教育委員会事務局（スポーツ課）より現状と課題
- ・生徒自身が社会課題を見出し、探究テーマを模索するきっかけとする。

○ディアルシステム 課題解決型インターンシップ（商/服：「諏実探究」）

・事業所（セイコーエプソン株式会社/諏訪湖リゾート株式会社/諏訪市障がい者福祉サービス事業所 森の工房あかね舎）にて実施



▲諏訪湖リゾート株式会社さんで Hot tea latte を考案し、実際にお客様に提供する様子

研究協力

○地域課題発見、解決（商/服：「諏実探究」）

- ・協力先（湖明館通り商店街活性化委員会や諏訪湖カヤック、地元保育園・小学校）
- ・内容 商店街イベントの合同企画、そば打ち営業、地元企業の Web PR、諏訪湖環境改善、古着・靴の回収と海外譲渡、災害時対策、ニュースポーツの考案と実演 等

高大連携授業

○上級学校理解（商：「財務会計Ⅰ」）

- ・上級学校の講義聴講（松本大学や松商短大等）で
- ・上級学校での発展的学習に触れたり、キャンパスライフを体験し、卒業後の進路を考える

3 学年 ～想像から創造へ～

高大連携授業

- 信州大学理学部、諏訪東京理科大学、南信工科短大（工：「課題研究」）

教授の指導の下、上級学校の高度な学びと理論に触れ、研究を深める。

企業連携

- 熟練技能者による講演実技指導（大和電機株式会社）めっき処理技術について（工：「実習」）



▲めっき処理技術を学ぶ様子

企業・大学連携

- 「岡谷市と大学生と一緒に岡谷の魅力を発信する商品開発」（工：課題研究）

岡谷の宝物を大学生と一緒に探し、それを都市部に届けよう！岡谷の商品開発に挑戦」プロジェクトに参加して、商品開発をしている。

企業連携

- お弁当の掛け紙デザイン（商：「観光ビジネス」）

上諏訪駅でのイベント販売用お弁当の掛け紙デザインの依頼を受け制作した。既存のお弁当ではあったが、おかずやお弁当調理に対する思いを取材し図案化した。



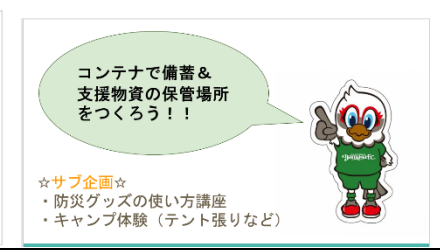
▲講座生徒がそれぞれに考案した掛け紙の図案



▲美術部生徒が図案（岡工）

○サッカー試合時イベント企画（商：「観光ビジネス」）

問題解決型学習（PBL）として松本山雅様より課題をいただき、生徒が集客増・収益増、地域貢献の視点からアイデアをまとめプレゼンテーションした。3企画を採用いただき、令和7年11月15日にアルウィンにて企画を実施する予定。

 ファミリーチケット ・日曜日の午後開催のファミリー席を指定 ・大人2名まで（定員5名） 価格 7,500円 （大人2名までで家族チケットを輸入した場合は、お一人1,500円、家族5,000円） 【開催日時】令和7年11月15日（日） 大人2名以上の利用/大人1名+小学生4名 小学生利用は大人1名につき小学生1名まで、大人の最上での観戦は、小学生無料（入場可能）	 勝敗予想について スマホでQRコードを読み込んで予想を投票する QRコードはスタンプカードを読み込んでもらう 勝敗を当てたら1ポイントもらえます 予想できる制限時間は前半戦終了まで カードを自分たちで作る	 コンテナで備蓄 & 支援物資の保管場所をつくらう！！ ☆サブ企画☆ ・防災グッズの使い方講座 ・キャンプ体験（テント張りなど）
・ファミリーチケットの販売 ・ドリンク付きチケットの販売	・勝敗予想 ・アルウィン＆縄手通りスタンプカード	・コンテナで災害時対応備蓄品管理 ・防災グッズ体験 & キャンプ体験

○諏実タウンにおけるプラスチックごみを活用したアクセサリー制作（服：「課題研究」）

服飾科は、ごみ問題の解決とファッションに着目した活動を模索してきた。諏訪湖や海岸のごみ拾いを行い、そのごみを有効活用できないか模索している。既にそのような活動をされている方から講演と制作指導を頂いた。今秋の諏実タウンで、プラスチックごみを加工したアクセサリーを制作・販売したいと試行錯誤する。



講演および加工指導

小学生との交流

○プログラミング指導（工：課題研究）

岡谷市立神明小学校において、岡谷市と共同で小学生に簡単なプログラミングを指導してロボットを動かす授業を実施

○地元小学生を対象とした「おもしろ化学実験」（工：部活動）

地元の小学生を対象とした、化学実験教室を開催した。親子20組が来校して、化学のおもしろさや身近に感じてもらう機会になった。



▲化学実験の様子